

令和 7 年 6 月 6 日

令和 7 年度静岡市協働パイロット事業審査委員会 審査結果講評

令和 7 年度静岡市協働パイロット事業審査委員会
委員長 川村 美智

令和 7 年度の静岡市協働パイロット事業では、6 件の協働事業が提案されました。各企画提案について、新規事業一次審査（書類審査）を実施し、これを通過した 3 件の企画提案を対象に新規事業二次審査（面接審査）を実施しました。あわせて、令和 6 年度に採択された事業の継続提案について、書類審査を実施しました。

「協働事業」とは、具体的な個別の課題について、それぞれ自らの果たすべき役割及び責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力し合い、又は補完し合って行うものをいいます。

協働パイロット事業においても、本市全体の社会的課題について、本市と実施団体が協働して取り組んでいく提案を期待するものです。

新規事業の審査においては、次の 6 つの評価点に基づいて評価・採点を行いました。

- (1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか
- (2) 協働にふさわしい事業か
- (3) NPO の先駆性・創造性を活かした事業か
- (4) 実行性が十分に感じられるか
- (5) 予算の見積りは適正か
- (6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か

協働パイロット事業は試行的な協働事業ですが、これを契機に本格的な協働事業への発展や、継続的な事業実施へのステップアップを目指すものであるため、「(1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか」、「(2) 協働にふさわしい事業か」及び「(6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か」については、特に重点を置いて評価をしました。

新規事業二次審査の結果、以下の 2 件の企画提案を令和 7 年度静岡市協働パイロット事業の候補として選定しました。

- 1 きみの居場所プロジェクト
静岡の未来を拓く会

- 2 聴き合い、受け止め合い、伝え合う。垣根を越えた対話で、市民がつながり続ける事業
つながりあいず

継続事業に関しては、次の4つの視点に基づいて評価を行いました。

- (1) 初年度事業について、社会的課題の解決に対して一定の成果が認められるか。
- (2) 初年度事業の成果を踏まえた事業提案となっているか。
- (3) 本格実施への発展性が見込める事業か。
- (4) 予算の見積りは適正か。

継続事業審査の結果、以下の3件の企画提案を令和7年度静岡市協働パイロット事業の候補として選定しました。

- 1 新たな活動が生まれる大谷・小鹿周辺地区協創プラットフォームの構築
特定非営利活動法人 ESUNE
- 2 静岡グリーンラボ～みどりを活かす人材の活躍の仕組みづくり～
一般社団法人グリーンパークあさはた
- 3 放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト
特定非営利活動法人 BASSplus

【審査委員講評】

《新規事業》

提案事業名：きみの居場所プロジェクト

提案団体名：静岡の未来を拓く会

審査結果：選定する

学校生活に不安を抱える子どもたちが、高校生との遊びや会話をとおして気軽に相談できる居場所をつくるという提案をいただきました。

本事業は団体の会員でもある高校生からの発案を団体が受け止め提案に至っている点や、定期的に団体と高校生とで話し合いの機会を設け意見交換するなど、信頼関係が構築されているという点で若者の熱意をうまく汲み取り事業化につなげたことや、団体のサポートを踏まえ安定した事業運営が見込まれることが評価され、採択事業候補として選定されました。

今回は城北地区を対象とした提案ですが、今後は他の学校・地域へ広めていく事業展開を目指すことを検討しているとのことでした。例えば、安東地区においては小中高校がそれぞれ近隣にあるため、それぞれの主体と連携できるのではないかと考えられます。本事業の情報を発信するなど、協働の拡大といった観点からも様々な検討を行っていただきたいと思います。

なお、団体の主要スタッフの専門性が高いだけに、高校生の自主性を阻害しないか懸念があるという意見や、団体の企画運営を担うメンバーの女性登用の促進を図ってほしいという意見も委員から出ました。本事業の実施については、それらの点も考慮いただければと思います。

提案事業名：聴き合い、受け止め合い、伝え合う。垣根を越えた対話で、市民がつながり続ける事業

提案団体名：つながりあいず

審査結果：選定する

孤独や不安を抱える市民に対し、気軽に対話できる場を設けることによって市民同士のつながりが生まれ、関係性が日常的に継続する仕組みを構築する事業の提案をいただきました。

氷河期世代に対するセーフティーネットの観点から大きな意義があると考えられる点や、令和6年度の不採択という評価を踏まえ、よりブラッシュアップされた提案となっている点で評価され、採択事業候補として選定されました。

本事業においては、「対話」が目的ですが、それを前面に押し出しすぎるとかえって対

話が生まれにくいのではないかという意見がありました。例えば料理やスポーツ等、何か別の活動を通じて対話につなげるという方法等、よりよい対話の方法について継続的に検討いただき、更なる事業の磨き上げに期待します。

また、今後の団体運営にあたっては、資金調達手段としてクラウドファンディングの実施を検討されているとのことでした。委員からは、今後団体として自立していくという点において、団体としての事業基盤を確立することで、助成金等も申請しやすくなるのではないかといった意見もありました。今後の団体運営の参考にしていただきたいと思います。

提案事業名：静岡市こども食支援ネットワーク構築・運用事業

提案団体名：おかえり hug 事務局

審査結果：選定しない

市内における食支援の包括的なネットワークを構築する事業について提案をいただきました。

これまでの団体の活動を通じた経験から、静岡市における食支援ネットワークの構築に着目する等、社会ニーズを適切に把握できている点や、子ども食堂やPTA等、団体の資源を有効に活用した提案となっている点については、高く評価されました。

一方で、事業内容については誰とどのように進めていくのか、団体の動きが見えにくく、具体的なネットワーク構築の道筋等において緻密な検討が欲しかったという意見がありました。例えば、今年度は既存団体がどこにどれだけあるのかマッピングしたり、既存団体との連携づくりを強化したりと事前調査を行うことで来年度の提案につながるのではないかと考えられます。

これまでの実践や他団体とのつながりを基に、本格実施への発展性を見据えた提案となることを期待しています。

提案事業名：静岡フットボール映画祭

提案団体名：静岡フットボール映画祭実行委員会

審査結果：選定しない

課題テーマ「スポーツに付加価値を！『スポーツ×〇〇』の取組！」に対する提案をいただきました。

本事業は、静岡市スポーツ推進計画を尊重したうえで、市民にスポーツを身近に感じさせ、スポーツを「する」人の増加を図る事業となっています。団体の構成メンバーにはメ

ディアやイベント関連での経験者が多いため、事業の実効性が十分にあるという点で評価されました。

しかし、事業内容については、既に他市で同様の事例が民間ベースでもあることから、NPO としての先駆性・創造性が見いだしにくいといった意見や、市と協働することによって得られる効果について、検討し直す必要があるのではないかといった意見がありました。

協働する意義を改めて捉え直し、団体のノウハウと市の資源を有効に活用できるような提案に高めた事業となることを期待します。

提案事業名：「まちなか保健室」開設事業

提案団体名：特定非営利活動法人 Safety First 静岡

審査結果：取り下げ

団体の都合により、審査に不参加であったため、本事業に関する講評はありません。

提案事業名：介護保険では担えない生活支援を行う地域住民への支援およびバックアップを行うための取り組み

提案団体名：一般社団法人まんまる

審査結果：選定しない

誰かの役に立ちたいと思いながらも、支援体制がないために地域活動に踏み出せない人に対し、安心して地域活動ができる仕組みを整備するという提案をいただきました。

本事業は、専門的な知見と資格がないと実施できないという点から、団体の資源を有効に活用した提案であるといえます。

しかし、事業内容については市で類似事業を実施しているとともに、人材育成の色が強く、仕組みの整備という点でも今一歩であるという意見がありました。

また、地域と連携した仕組みを整備することは非常に時間と労力がかかります。今回の提案ではモデル地区からの募集となっていますが、自治会の負担を考えるとまずは自治会ありきではなく、団体のこれまでの活動やつながりをもとに、モデル地区になりそうなところを探し実施してみる等、先行事例をつくったうえで提案いただけるとよりよいものになったと考えます。

今回は選定には至りませんでしたが、団体の特性を活かし、更なる事業の練り上げに期待します。

提案事業名：新たな活動が生まれる大谷・小鹿周辺地区協創プラットフォームの構築

提案団体名：特定非営利活動法人 ESUNE

審査結果：選定する

令和6年度からの継続として、大谷・小鹿地区における多様な主体がまちづくりに参画できる活動機会を創出し、当該地区の協創プラットフォームの構築事業として提案いただきました。

本事業は、令和6年度に実施したコミュニティーリーダーの発掘・育成事業の成果を踏まえ、大谷・小鹿地区の住民及び大学生が共に取り組むことができる新たな活動創出支援を行うものです。

令和6年度に実施された事業によって生まれた大学生と地域住民との新たな交流や、新しい地域組織などの活動が、令和7年度も継続して実施することにより、さらに混ざり合いながら新しい活動が生まれるプラットフォームの構築に期待します。

また、協働パイロット事業終了後の事業展開についても、事業実施の中で継続して検討していただきたいと思います。

提案事業名：静岡グリーンラボ～みどりを活かす人材の活躍の仕組みづくり～

提案団体名：一般社団法人グリーンパークあさはた

審査結果：選定する

令和6年度からの継続として、みどり（公園・緑地）の活用を促進する人材が活躍するための仕組みを整えることで、みどりを活かしたまちづくりを推進する事業として提案いただきました。

本事業は、令和6年度に実施した市民が公共空間に能動的に関わろうと思える気運を醸成する事業の成果として策定したプログラムを実践する内容となっています。

座学・実地・対話を組み合わせたプログラムは、みどりに関する幅広い知識や経験を習得できる機会となることが見込まれます。本事業がみどりの活用を促進するコーディネーターが活躍する仕組みづくりに向けた実践モデルとなることで、今後の制度化に向けた大きな一歩となることを期待します。

提案事業名：放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト

提案団体名：特定非営利活動法人 BASSplus

審査結果：選定する

令和6年度からの継続として、放任竹林の整備の過程で発生する竹の枝葉を日本平動物園で飼育されているレッサーパンダの飼料として活用する一連の体制を構築することで、竹の経済的価値創出を通じた竹林整備団体の持続可能な活動の支援及び動物の飼料調達に要するコストの削減を図る事業として提案いただきました。

本事業は、令和6年度に実施した事業の成果を踏まえ、事業運用の刷新や事業の周知拡大を行うことで、より安定した枝葉の搬入や参加団体の拡大を図り、事業の価値を高めるものです。令和7年度は大学との連携についても本格的に実施するとのことで、若年層へのアプローチにも期待します。

協働パイロット事業終了後の展望として、企業協賛の拡大と個人協賛の開始により事業継続を図るとされています。ぜひ、事業終了後の継続的な実施に向けた仕組みの構築についても進めていただきたいと思います。